

番号	質問	評価
1	いろいろな分野の知識が充実してきた。	
2	サイエンス入門で得た知識が、別の機会（場面）での考察で役に立ったり、別の機会における疑問につながることもある。	
3	説明を聞いたり、資料などを読んだりするうちに、「出来事」の部分と「意見」の部分の区別して考えることが多くなった。	
4	サイエンス入門で、自分の興味や関心が高まった。	
5	疑問に思ったことを解消するために、事後に文献やインターネット等の検索を行うことが多くなった。	
6	自然科学分野において、疑問を調べたり興味が生じたことに対して取り組む時間が多くなった。	
7	何かに取り組むときに、まず、「しなければならないこと」の順番を考えてから取りかかるようになった。	
8	何かに取り組むときに、計画をメモ書きなどすることが多くなった。	
9	特徴がつかみにくい場合や、複雑な場合、事象や文章などの区切りやまとまりを探して細分化することが多くなった。	
10	特徴や重点を明確にするために、図などの工夫をしたり、タイトル（箇条書きなど）をつけることが多くなった。	
11	正しく操作できる実験器具が増えた。	
12	エクセルやワード、パワーポイントなどのソフトウェアを用いて、数値データから適切なグラフの作成や計算ができるようになった。	
13	実験などの提出物に、「動機、目的、方法、結果、考察、今後の課題」といった内容を入れて仕上げるができるようになった。	
14	実験などの提出物に、得られたデータや参考文献などを適切な書式で書き加え、信頼性を確保する（できる）ようになった。	
15	興味のある分野について、本や論文、専門書などを探すようになった。	
16	説明や発表をする場合には、メモなどを見ない、ジェスチャーを交える、語りかける、聞き手の印象に残るための工夫をする等を行うようになった。	
17	疑問が生じたら、相手に質問をすることができるようになった。	
18	発表会や説明する場では、質問することが発表者（説明者）のためにもなると思うようになった。	
19	発表や説明をする場合には、質問されそうな事項を想定して回答を考えておいたり、簡単な資料などを示せるように準備するようになった。	
20	発表や説明をするような場で、質問に対して回答するときには、聞く側と自分の知識の差を考慮して、聞く側にわかりやすい表現で伝えるようになった。	
21	発表や説明に対して自分の考えを述べるときや、質問に対して回答をするときに、客観的な根拠を示すようになった。	
22	発表や説明をするような場で、自分が質問したことに対する相手の回答が食い違っていたり不十分であった場合に、別の表現で再度質問をするなりして議論の継続に努力することができるようになった。	
23	自然科学に関する講演会や発表会では積極的に参加し、他の生徒や専門家に話しかけることができた。	
24	発表やそのための調査・資料作成等のグループ活動では、役割を受け持つことができる。	
25	発表のためのポスターや短い原稿（発表原稿や要旨）を作ることができる。発表で見せる資料が、その目的に対して効果的になってきた。	
26	発表会のような場に聞く側として参加するとき、事前に調べたり、質問することも検討しながら不明な点・疑問点をメモしたり、配布資料にしるしを付けるよう	